

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちは。最澄と空海の時代についてお伝えしている今年のかかわら版。今月のテーマは**最澄と空海の諡号(しごう)**についてです。

★諡号

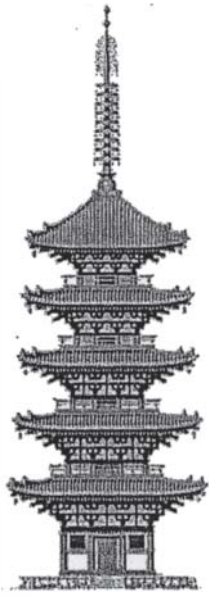
大師号は、功徳のあった高僧に対し、朝廷(天皇)から贈られる**諡号**≡**贈り名(尊称)**のひとつです。

諡号には、大師号のほかに**法師号**、**国師号**、**禪師号**などもあります。

意外なことに、大師号の始まりは、中国よりも日本の方が先と言われています。

日本では、**八六六年**、**清和天皇**が**最澄に伝教大師**、**円仁に慈覚大師**を贈ったのが始まり。

一方の中国。公式な大諡号は、**八七〇年**、**唐の懿宗帝**が**雲顛**に三



慧大師、**僧徹**に**浄光大師**を贈ったのが最初とされています。

しかし、**隋の煬帝**が**智顛**に**智者大師**を贈った記録もあり、慣行としては古くから行われていたようです。

★弘法大師

八五七年、**入定(八三五年)**後二十二年を経て、**文徳天皇**が**空海**に**大僧正**の官位を**追贈**。

八六四年、**清和天皇**が**空海**の徳を讃え、**法印大和尚**を**追贈**。

そして、**九二一年**、**醍醐天皇**が**弘法大師**を**追贈**します。

時の東寺長者(管長)の**観賢(かんげん)**僧正は、天皇から下賜された御法衣を持って高野山に上り、奥の院御廟を開扉。空海

の法衣を改めました。都に戻った**観賢僧正**は、**東寺灌頂院(かんじょういん)**において、毎月二十一日の**空海の月命日**に法要を行う**御影供(みえく)**を定例化。

こうして、**入定(にゅうじょう)**≡**空海**は亡くなったのではなく、**今も高野山の奥の院**で悟りの

境地に入って衆生(人々)を見守っている≡**空海**は生きていっているといふ受け止め方、**弘法大師号**、**御影供**という、**弘法大師**信仰の三要素が確立しました。

平安時代末期には、**弘法大師**信仰が篤くなり、**東寺**への参詣者が急増。**東寺南大門**前に**一服一銭**という茶屋が開かれました。

御影供法要の毎月二十一日に大勢の人で賑わう「**弘法さん**」の縁日も、その頃に始まったようです。



弘法さんで賑わう東大寺南大門

★台密と東密

平安時代は**七九四年**に**桓武天皇**が**平安京**に遷都してから、**源頼朝**が**征夷大将軍**に任じられて**鎌倉幕府**を開府する**一一九二年**までの約四百年間を指します。

その**平安時代初期**に登場した**最澄**と**空海**。それぞれ、多くの弟子を輩出しました。

円仁は**最澄**入寂(八三二年)後、その遺志を継いで**円珍**とともに入唐し、密教を修得。**円仁**と**円珍**はそれぞれ**山門派**と**寺門派(三井寺園城寺)**の祖となりました。その後、**円珍**も**智証大師**を賜っています。

円仁と**円珍**は**天台密教(台密)**を完成させただけでなく、唐から**浄土教**、**浄土思想**を日本にもたらしました。

比叡山中興の祖と言われる**良源(九一二〜九八五年)**に師事した**源信(九四二〜一〇一七年)**は、**観心略要集**、**往生要集**などを著し、**浄土思想**を広めました。

その後、**源信**の後輩たちから現在のほとんど全ての宗派につながる**宗祖**が生まれることになりました。

一方の**空海**の弟子たち。**八三五年**の**空海**入定後、**金剛峯寺(高野山)**は**真然(しんねん)**、**東寺**は**実慧(じちえ)**、**神護寺**は**真澄(しんせい)**が継承。

弟子たちの努力もあって**空海**の名声は高まり、**弘法大師号**の追贈につながりました。そして、**真言密教(東密)**は、今日まで脈々と法統・門統を伝えていきます。

★最澄の教え≡照千一隅

その後の日本仏教の礎を築いた**最澄**と**空海**。来月は**照千一隅(一隅を照らす)**に代表される**最澄の教え**の一端をご紹介します。乞ご期待。

